

横浜市立 すみれが丘小学校 学校評価報告書 (平成28～30年度)

重点分野		平成28年度		平成29年度		平成30年度		
重点分野	具体的取組	自己評価結果	総括	重点分野	具体的取組	自己評価結果	総括	
確かな学力	①全学級で「学習スタンダード」と「問題解決」を意識した授業展開を図るとともに、スキルタイム、家庭学習等による基礎・基本の定着と授業改善を図る。②重点研究では、図画工作科、算数科の指導を通して、言語活動を充実させ、学び合いを推進し、思考力・判断力・表現力等の向上を目指す。③重点研究では、図画工作科、算数科の指導を通して、言語活動を充実させ、学び合いを推進し、思考力・表現力等児童の資質・能力を育む。	①学習スタンダードの確立には、まだ時間を要する状況である。スキルタイム、家庭学習等と連動させた基礎基本の定着を図る。②問題解決を意識した授業展開を更に工夫してきている。③計画通り推進することができた。特に図画工作科は、A表現し、(1)造形遊びに特化し、各学年2題材を実施した。	B	確かな学力	①全学級で「学習スタンダード」と「問題解決」を意識した授業展開を図るとともに、スキルタイム、家庭学習等による基礎・基本の定着と授業改善を図る。②重点研究では、図画工作科、道徳科の指導を通して、友達とあかり合って、お互いの考えを認め合い、自分の考えを表現できる児童の資質・能力を育成することができた。	①は、学習スタンダードの確立や問題解決を意識した授業展開の工夫について、継続して研鑽を積んでいる。②については、今年度より先行実施となった「特別の教科道徳」について研究を通して深めることができた。図画工作科の鑑賞について特化した研究においても、自分の考えを表現できる児童の育成を計画し進んでいる。	B	
豊かな心	①へア学年の活動を年間通して展開する。②図画工作科、音楽科、特別活動の教育課程を工夫し、学校キャラクターの活用など、心豊かな活動や環境をつくる。③自ら進んであいさつする姿を定着させる。④道徳教育や特別支援教育を充実させ、個を大切にした児童理解と思いやりの心を育む。⑤幼児小連携を1.5年を中心に展開する。	①へア学年の活動を年間通して展開する。②図画工作科、音楽科、特別活動の教育課程を工夫し、学校キャラクターの活用について、かなり充実してきた。児童の心を育育する様々なしあわせを講じた。③あいさつを活性化させたしあわせを講じた。④特別支援では、児童理解を組織的に推進。⑤幼児小連携は、1.5年を	①へア学年の活動を年間通して展開する。②図画工作科、音楽科、特別活動の教育課程を工夫し、学校キャラクターの活用など、心豊かな活動や環境をつくる。③自ら進んであいさつする姿を定着させるためのしあわせを講じた。④道徳教育や特別支援教育を充実させ、個を大切にしたい児童理解と思いやりの心を育む。⑤幼児小連携を1.5年を	A	豊かな心	①へア学年の活動を年間通して展開する。②図画工作科、音楽科、特別活動の教育課程を工夫し、学校キャラクターの活用など、心豊かな活動や環境をつくる。③自ら進んであいさつする姿を定着させるためのしあわせを講じた。④道徳教育や特別支援教育を充実させ、個を大切にしたい児童理解と思いやりの心を育む。⑤幼児小連携を1.5年を	①へア学年の活動を年間通して展開する。②図画工作科、音楽科、特別活動の教育課程を工夫し、学校キャラクターの活用など、心豊かな活動や環境をつくる。③自ら進んであいさつする姿を定着させるためのしあわせを講じた。④道徳教育や特別支援教育を充実させ、個を大切にしたい児童理解と思いやりの心を育む。⑤幼児小連携を1.5年を	A
健やかな体	①けがや病気の少ない安全・安心な生活ができるよう、基本的な生活習慣の定着について、具体的対策を立案し、実行する。②一校一実践運動会を通して、児童の健康や習慣性へと展開する必要がある。③昨年度と比較して、対策を必要として講じていること、残量が減少した。さらに教職員間の共通理解を深める。	①けがや病気の少ない安全・安心な生活ができるよう、基本的な生活習慣の定着について、具体的対策を立案し、実行する。②一校一実践運動会を通して、児童の健康や習慣性へと展開する必要がある。③昨年度と比較して、対策を必要として講じていること、残量が減少した。さらに教職員間の共通理解を深める。	①けがや病気の少ない安全・安心な生活ができるよう、基本的な生活習慣の定着について、具体的対策を立案し、実行する。②一校一実践運動会を通して、児童の健康や習慣性へと展開する必要がある。③昨年度と比較して、対策を必要として講じていること、残量が減少した。さらに教職員間の共通理解を深める。	B	健やかな体	①けがや病気の少ない安全・安心な生活ができるよう、基本的な生活習慣の定着について、具体的対策を立案し、実行する。②一校一実践運動会を通して、児童の健康や習慣性へと展開する必要がある。③昨年度と比較して、対策を必要として講じていること、残量が減少した。さらに教職員間の共通理解を深める。	①けがや病気の少ない安全・安心な生活ができるよう、基本的な生活習慣の定着について、具体的対策を立案し、実行する。②一校一実践運動会を通して、児童の健康や習慣性へと展開する必要がある。③昨年度と比較して、対策を必要として講じていること、残量が減少した。さらに教職員間の共通理解を深める。	B
安全管理	①危険回避能力を育成する警察、消防などと連携した授業を教育課程に位置付け毎年行う。縦の系列を整理し、6年間かけて育てていく。②休みの時間の見守りについては、児童支援専任を中心に、適所に職員が散在し、事故の未然防止に努める。③施設面については、定期点検を確実にし、改善箇所については迅速に対応し、改善する。	①危険回避能力を育成する警察、消防などと連携した授業を教育課程に位置付け毎年行う。縦の系列を整理し、6年間かけて育てていく。②休みの時間の見守りについては、児童支援専任を中心に、適所に職員が散在し、事故の未然防止に努める。③施設面については、定期点検を確実にし、改善箇所については迅速に対応し、改善する。	①危険回避能力を育成する警察、消防などと連携した授業を教育課程に位置付け毎年行う。縦の系列を整理し、6年間かけて育てていく。②休みの時間の見守りについては、児童支援専任を中心に、適所に職員が散在し、事故の未然防止に努める。③施設面については、定期点検を確実にし、改善箇所については迅速に対応し、改善する。	B	安全管理	①危険回避能力を育成する警察、消防などと連携した授業を教育課程に位置付け毎年行う。縦の系列を整理し、6年間かけて育てていく。②休みの時間の見守りについては、児童支援専任を中心に、適所に職員が散在し、事故の未然防止に努める。③施設面については、定期点検を確実にし、改善箇所については迅速に対応し、改善する。	①危険回避能力を育成する警察、消防などと連携した授業を教育課程に位置付け毎年行う。縦の系列を整理し、6年間かけて育てていく。②休みの時間の見守りについては、児童支援専任を中心に、適所に職員が散在し、事故の未然防止に努める。③施設面については、定期点検を確実にし、改善箇所については迅速に対応し、改善する。	A
児童指導	①これまでの「学校のきまり」を再度見直し、全教職員で共通理解して指導に当たる。②児童指導が発覚した際には、担任と児童支援専任など複数体制で迅速に事実確認を行い、事実に基づき指導を行った後、保護者に丁寧な説明を行う。また、記録を残す。③職員会議にて児童理解の内容を定例化し、児童の状況を共通理解する。	①学校のきまりを再確認し、共通理解を促した。②児童指導が発覚した際の対応が的確にできてきた。③児童支援専任など複数体制で迅速に事実確認を行い、事実に基づき指導を行った。④職員会議にて児童理解の内容を定例化し、児童の状況を共通理解する。	①学校のきまりを再確認し、共通理解を促した。②児童指導が発覚した際の対応が的確にできてきた。③児童支援専任など複数体制で迅速に事実確認を行い、事実に基づき指導を行った。④職員会議にて児童理解の内容を定例化し、児童の状況を共通理解する。	A	児童指導	①学校のきまりを再確認し、共通理解を促した。②児童指導が発覚した際の対応が的確にできてきた。③児童支援専任など複数体制で迅速に事実確認を行い、事実に基づき指導を行った。④職員会議にて児童理解の内容を定例化し、児童の状況を共通理解する。	①学校のきまりを再確認し、共通理解を促した。②児童指導が発覚した際の対応が的確にできてきた。③児童支援専任など複数体制で迅速に事実確認を行い、事実に基づき指導を行った。④職員会議にて児童理解の内容を定例化し、児童の状況を共通理解する。	A
保護者・地域との連携	①学校運営協議会は年間4回の開催とし、日常の教育活動について積極的に委員にかかわっていただくようにする。②サポーター協議会においては、学校・地域コーディネーターとの連携を一層強化し、サポーター登録者の増加を図る。③PTA組織におけるサークル等、特色ある取組を活用し、取組の良さをHPや広報誌などで情報発信し周知を	①学校運営協議会は年間4回の開催とし、日常の教育活動について積極的に委員にかかわっていただくようにする。②サポーター協議会においては、学校・地域コーディネーターとの連携を一層強化し、サポーター登録者の増加を図る。③PTA組織におけるサークル等、特色ある取組を活用し、取組の良さをHPや広報誌などで情報発信し周知を	①学校運営協議会は年間4回の開催とし、日常の教育活動について積極的に委員にかかわっていただくようにする。②サポーター協議会においては、学校・地域コーディネーターとの連携を一層強化し、サポーター登録者の増加を図る。③PTA組織におけるサークル等、特色ある取組を活用し、取組の良さをHPや広報誌などで情報発信し周知を	A	保護者・地域との連携	①学校運営協議会は年間4回の開催とし、日常の教育活動について積極的に委員にかかわっていただくようにする。②サポーター協議会においては、学校・地域コーディネーターとの連携を一層強化し、サポーター登録者の増加を図る。③PTA組織におけるサークル等、特色ある取組を活用し、取組の良さをHPや広報誌などで情報発信し周知を	①学校運営協議会は年間4回の開催とし、日常の教育活動について積極的に委員にかかわっていただくようにする。②サポーター協議会においては、学校・地域コーディネーターとの連携を一層強化し、サポーター登録者の増加を図る。③PTA組織におけるサークル等、特色ある取組を活用し、取組の良さをHPや広報誌などで情報発信し周知を	A
教育環境整備	①フレンドリーな校舎解体と、校庭の全面改修を受け、既存の教室や校庭の活用方法を検討し、持続可能な形態を構築する。(西棟2階:図書室とオープンルーム、3階:図書室とPCルーム)②図書館の環境整備と運用を一層図る。③前期に行った体育的行事に対して、後期に文化的行事を設定するとともに、宿泊体験学習などの見直しを行う。	①今年度計画していた、大きな施設改修を、安全に行うだけでなく、教育課程や学校のきまりの見直し、創意ある活動や導入して児童育成の視点で行ったことと成果であった。②図書室の整備は本年度への検討課題となった。③すめれ発表会の実施、日光宿泊体験学習を2泊3日とする	①西棟1階:キッズ、PTAエナジー図書室、すめれルーム、3階:図書室、PCルームの特色を出した環境整備を進める。②図書室の環境整備と運用を一層図る。③図画工作科作品展示を工夫し、変化のある環境を創造する。④日常的な清掃活動をしかりと行い、清掃を行き届かせる。⑤校内A・B館を各月行い、特別教室等の整備を進める。	A	教育環境整備	①西棟1階:キッズ、PTAエナジー図書室、すめれルーム、3階:図書室の特色を出した環境整備を進める。②図書室の環境整備と運用を一層図る。③図画工作科作品展示を工夫し、変化のある環境を創造する。④日常的な清掃活動をしかりと行い、清掃を行き届かせる。⑤校内A・B館を各月行い、特別教室等の整備を進める。	①西棟1階:キッズ、PTAエナジー図書室、すめれルーム、3階:図書室の特色を出した環境整備を進める。②図書室の環境整備と運用を一層図る。③図画工作科作品展示を工夫し、変化のある環境を創造する。④日常的な清掃活動をしかりと行い、清掃を行き届かせる。⑤校内A・B館を各月行い、特別教室等の整備を進める。	A
いじめへの対応	①YPアセスメントシートによる児童の人間関係分析を2回行い、実態を把握する。②横浜プログラムを年4回実施し、集団の育成に役立てる。③いじめに対する教職員の理解を深める研修会を年2回行い、常に新しい情報を共有できるようにする。④案件等発生した際にはいじめ防止対策委員会を早急に開催するとともに、対応を協議し、早期解決を図る。	①YPアセスメントシートによる児童の人間関係分析を2回行い、実態を把握する。②横浜プログラムを年4回実施し、集団の育成に役立てる。③いじめに対する教職員の理解を深める研修会を年2回行い、常に新しい情報を共有できるようにする。④案件等発生した際にはいじめ防止対策委員会を早急に開催するとともに、対応を協議し、早期解決を図る。	①YPアセスメントシートによる児童の人間関係分析を2回行い、実態を把握する。②横浜プログラムを年4回実施し、集団の育成に役立てる。③いじめに対する教職員の理解を深める研修会を年2回行い、常に新しい情報を共有できるようにする。④案件等発生した際にはいじめ防止対策委員会を早急に開催するとともに、対応を協議し、早期解決を図る。	B	いじめへの対応	①YPアセスメントシートによる児童の人間関係分析を2回行い、実態を把握する。②横浜プログラムを年4回実施し、集団の育成に役立てる。③いじめに対する教職員の理解を深める研修会を年2回行い、常に新しい情報を共有できるようにする。④案件等発生した際にはいじめ防止対策委員会を早急に開催するとともに、対応を協議し、早期解決を図る。	①YPアセスメントシートによる児童の人間関係分析を2回行い、実態を把握する。②横浜プログラムを年4回実施し、集団の育成に役立てる。③いじめに対する教職員の理解を深める研修会を年2回行い、常に新しい情報を共有できるようにする。④案件等発生した際にはいじめ防止対策委員会を早急に開催するとともに、対応を協議し、早期解決を図る。	B
人材育成・組織運営	①メンターチームを5年次以下の教職員を中心に組織し、ミドルリーダーが中心となって月1回の活動を継続して行う。②週1回の教務会において、事務連絡だけでなく、学校経営改善の視点でついで話し合えるように各自が課題意識を高くもつて臨む。③組織の在り方を検討し、改編するなど小規模校としての組織運営について検討、改善する。④各研究会等で得た情報を共有できるように情報共有計画を立てる。	①今年度は、メンターチームの研究活動を重点研究に位置付け、算数科の研究を進めることができた。主体的な活動を職員全員で支えることができた。②週1回の教務会が適時性を生かした。学校経営の自己評価の場となっていた。③組織の在り方については、今年度の反省を生かして、次年度に	①メンターチームが中心となって月1回の職員研修を継続して行う。②週1回の教務会において、事務連絡だけでなく、学校経営改善の視点でついで話し合えるように、各自が課題意識を高くもつて臨む。③組織の在り方を検討し、改編するなど小規模校としての組織運営について検討、改善する。④各研究会等で得た情報を共有できるように情報共有計画を立てる。	A	人材育成・組織運営	①メンターチームが中心となって月1回の職員研修を継続して行う。②週1回の教務会において、事務連絡だけでなく、学校経営改善の視点でついで話し合えるように、各自が課題意識を高くもつて臨む。③組織の在り方を検討し、改編するなど小規模校としての組織運営について検討、改善する。④各研究会等で得た情報を共有できるように情報共有計画を立てる。	①メンターチームが中心となって月1回の職員研修を継続して行う。②週1回の教務会において、事務連絡だけでなく、学校経営改善の視点でついで話し合えるように、各自が課題意識を高くもつて臨む。③組織の在り方を検討し、改編するなど小規模校としての組織運営について検討、改善する。④各研究会等で得た情報を共有できるように情報共有計画を立てる。	A
ブロック内相互関係の質的向上	1中4小のブロックで、それぞれ学校の個性を大切にしながら、育っている子ども像を共有するとともに、児童生徒指導の定着と学習指導の充実を図る。研修会では、ユニバーサルデザインを軸にした研究成果の取組が行われた。また学習指導要領改訂とこれらとの授業づくりに関する講演をいただき、積極的に学ぶ授業(アブティラーニング)について、校種を越えて共通理解を深めた。9年間身に付けさせたい方向について、具体的に検討し、9年間の入り口(スターカリキュラム)と出口について理解を深め、あいさつ等の現状について共通理解することができた。	①今年度は、メンターチームの研究活動を重点研究に位置付け、算数科の研究を進めることができた。主体的な活動を職員全員で支えることができた。②週1回の教務会が適時性を生かした。学校経営の自己評価の場となっていた。③組織の在り方については、今年度の反省を生かして、次年度に	①今年度は、メンターチームの研究活動を重点研究に位置付け、算数科の研究を進めることができた。主体的な活動を職員全員で支えることができた。②週1回の教務会が適時性を生かした。学校経営の自己評価の場となっていた。③組織の在り方については、今年度の反省を生かして、次年度に	B	ブロック内相互関係の質的向上	①今年度は、メンターチームの研究活動を重点研究に位置付け、算数科の研究を進めることができた。主体的な活動を職員全員で支えることができた。②週1回の教務会が適時性を生かした。学校経営の自己評価の場となっていた。③組織の在り方については、今年度の反省を生かして、次年度に	①今年度は、メンターチームの研究活動を重点研究に位置付け、算数科の研究を進めることができた。主体的な活動を職員全員で支えることができた。②週1回の教務会が適時性を生かした。学校経営の自己評価の場となっていた。③組織の在り方については、今年度の反省を生かして、次年度に	B
学校関係者評価	昨年度の40周年の学校全体の大きな盛り上がりから、今年41周年は持続可能な学校経営の形を模索していくとの趣旨があったが、まずは、大きな改修工事等、児童の育成も踏まえて、きちんとやり遂げたことと成果であった。また、学校全体に豊かな雰囲気があり、校長のビジョンが浸透してきていると評価できる。学校が、戦略的に計画を立案し、自己評価を行い、改善策を練るという一連の学校評価の形ができていく。課題となっている側面については、学校が学びを取り組むのではなく、外部人材等生かしていけるようになる。例として、すみれが丘小のひつこの特色であるサークル活	①今年度は、メンターチームの研究活動を重点研究に位置付け、算数科の研究を進めることができた。主体的な活動を職員全員で支えることができた。②週1回の教務会が適時性を生かした。学校経営の自己評価の場となっていた。③組織の在り方については、今年度の反省を生かして、次年度に	①今年度は、メンターチームの研究活動を重点研究に位置付け、算数科の研究を進めることができた。主体的な活動を職員全員で支えることができた。②週1回の教務会が適時性を生かした。学校経営の自己評価の場となっていた。③組織の在り方については、今年度の反省を生かして、次年度に	B	学校関係者評価	①今年度は、メンターチームの研究活動を重点研究に位置付け、算数科の研究を進めることができた。主体的な活動を職員全員で支えることができた。②週1回の教務会が適時性を生かした。学校経営の自己評価の場となっていた。③組織の在り方については、今年度の反省を生かして、次年度に	①今年度は、メンターチームの研究活動を重点研究に位置付け、算数科の研究を進めることができた。主体的な活動を職員全員で支えることができた。②週1回の教務会が適時性を生かした。学校経営の自己評価の場となっていた。③組織の在り方については、今年度の反省を生かして、次年度に	B
学校経営中期取組目標振り返り	児童がすすんで取り組み、みんなで解決し、いれをつくる人間関係を築くことのできる学校づくりを進めるとともに、サークルを掲げ、今年度はそこが伸びたという要素も加えた。この定着に関しても、まず意識的になり取組できているという自己評価になった。次年度に向けては、具体的指導場面や、学びの姿で、成果を向上させることができているようにする。5つの着点については、全て具体的取組目標として内容に落とし込んでいるので、着実に推進し、反省し、改善を図るといふサイクルを回していきたい。	①今年度は、メンターチームの研究活動を重点研究に位置付け、算数科の研究を進めることができた。主体的な活動を職員全員で支えることができた。②週1回の教務会が適時性を生かした。学校経営の自己評価の場となっていた。③組織の在り方については、今年度の反省を生かして、次年度に	①今年度は、メンターチームの研究活動を重点研究に位置付け、算数科の研究を進めることができた。主体的な活動を職員全員で支えることができた。②週1回の教務会が適時性を生かした。学校経営の自己評価の場となっていた。③組織の在り方については、今年度の反省を生かして、次年度に	B	学校経営中期取組目標振り返り	①今年度は、メンターチームの研究活動を重点研究に位置付け、算数科の研究を進めることができた。主体的な活動を職員全員で支えることができた。②週1回の教務会が適時性を生かした。学校経営の自己評価の場となっていた。③組織の在り方については、今年度の反省を生かして、次年度に	①今年度は、メンターチームの研究活動を重点研究に位置付け、算数科の研究を進めることができた。主体的な活動を職員全員で支えることができた。②週1回の教務会が適時性を生かした。学校経営の自己評価の場となっていた。③組織の在り方については、今年度の反省を生かして、次年度に	B